

活動名	団体名	認定 NPO 法人こどもステーション 山口
	地域	山口県山口市
	代表者	理事長 山本 有希
	支援金額	35 万円
つながる、つなげる、こどもキャンプ 2014		
活動概要	<p>小学校高学年から中学・高校生による「こどもリーダー」の育成を目的に宿泊研修を行い、自然とふれあうとともに、コミュニケーション能力や自主性・社会性を育てる。</p> <p>学校行事の中ではなかなか難しい、地域や年齢を越えた仲間づくりをすすめるために、他県の中学・高校生リーダーとの学習・交流会に参加する。</p> <p>このような研修を受けた「こどもリーダー」が主体となって、2泊3日の「こどもキャンプ」を計画し進めていたが、台風の影響が懸念されたためやむなく中止した。</p> <p>次回のキャンプにつなげるために、火をおこし食事を作る体験研修として、デイキャンプを実施した。</p> <p>◆実施時期</p> <p>2014年5月31日(土)～6月1日(日)リーダー研修会(山口市 山口紅花舎) 2014年7月5日(土)～7月6日(日)子ども劇場中四国会議(福山市) 2014年8月8日(金)キャンプ中止残念会(山口市 吉敷地域交流センター) 2014年8月22日(金)肝だめし(山口市 亀山公園周辺) 2014年12月14日(日)デイキャンプ(美祢市 秋吉台家族旅行村)</p> <p>◆参加人数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー研修会:16人(子ども8人、おとなスタッフ6人、講師2人) ・中四国ネット会議:8人(子ども5人、おとなスタッフ4人) ・キャンプ残念会:29人(子ども23人、おとなスタッフ6人) ・肝だめし:29人(子ども21人、おとなスタッフ8人) ・デイキャンプ:15人(子ども11人、おとな4人) <p>※その他、実行委員会10回</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:延べ約250名</p>	



5月31日(土) リーダー研修 ツリークライミング



8月8日(金) 子どもキャンプ2014 残念会 集合写真



11月14日(金) リーダーによる話し合い



12月14日(日) 冬のデイキャンプ

◆実施に伴う効果

リーダー研修会に外部講師を迎えたことによって、私たちの活動を知ってもらえることができ、別の事業にも参加してもらったり、相手が主催する事業に当団体が参加するなど、相互の交流が始まり、良い関係が続いている。

こどもリーダーたちは、研修会で学んだ集団遊びのスキルを、それぞれの学校生活でも活用して役立っているようだ。

他県の同じくらいの年齢の子どもたちとの交流は、他県の状況を知ると同時に、自分たちの状況を再認識することにつながり、良い関係が生まれ、その後も継続している。

◆苦勞した点

とにかく、活動のメインであるキャンプが中止になったことがいちばんの打撃だった。昨年も、水害によりキャンプ場が使用できなくなるというトラブルにより中止を余儀なくされており、2年続けてキャンプを行うことができていない。天候に左右される事業の難しさを実感した。

また、子どもたちが個々にとても忙しく、予定を調整して話し合いの機会を持つことに非常に苦勞した。特に秋は学校行事が立て続けにあり、気候の良い時に行う予定だった宿泊交流会の時期を逸してしまい、気候の厳しい時期のデイキャンプになってしまった。

◆今後の課題・発展の方向性

天候に左右される事業であることを肝に銘じ、天候が悪い時の準備もしっかりとしていかななくてはいけない。今後は、予定通り実施できた場合のみでなく、できなかった時の会場確保や内容の検討などのシミュレーションも、並行して行っていきたい。

また、今回行ったリーダー研修会の内容を今後も継承していくために、外部講師による研修会と内部での学習会を行い、一過性のものに終わらせない努力を続けていきたい。

子どもたちは成長に従って毎年状況が変化する。ある時期は受験や大学入学などで活動を離れても、心が離れることがないよう、おとなたちが子どもたち同士をつなぐサポートをしていかななくてはいけない。

◆活動を終えての感想・意見等

マツダ財団様のご支援を受けて、いつもにも増して充実した内容にしようと一同はりきって準備を進めてきたのに、まさかの中止でどうしたら良いかと頭が真っ白になりました。しかし、事情をお伝えすると、事務局の方がたいへんあたたかい言葉をかけてくださり、救われました。このような事態にも親切丁寧に対応していただき、心から感謝申し上げます。

キャンプ中止という不測の事態にめげることなく、「では何ができる？」と前を向いていく子どもたちには感心しました。

今年のキャンプはできませんでしたが、「思い」はつなげることができたと実感しています。おとなたちはこどもリーダーたちが学んだことを活かすサポートをしながら、この活動を綿々と続けていきたいと思えます。